

特集

「腹臥位」は特別なことじゃない 導入と継続のための道しるべ

「仰向け」を「うつぶせ」に。それだけで入院中・在宅療養中の患者に、高いADL改善効果をもたらす腹臥位療法。エビデンス性はまだ充分ではないものの、意識レベル、排尿・排便、呼吸・循環動態、さまざまな次元において、腹臥位がもたらす効果は実践レベルで数多く報告されています。しかし、一部の病院・在宅療養患者を除いて、入院患者・在宅療養者のほとんどは背臥位で療養しています。腹臥位を導入しない、あるいは継続できない理由は何でしょうか？ 腹臥位療法を実践している施設とそうでない病院の違いは何でしょうか？ 全国の腹臥位療法実践者に聞いてみました。

なぜ、背臥位なのか？ 腹臥位療法実践の「壁」を超える 大内基史
特別なことじゃない、日々の実践としての腹臥位療法 織部智香子
「継続できる」腹臥位療法をめざして 境裕子
腹臥位療法普及のために必要なこと 正井章子
1人で行なう腹臥位への体位変換 真島千歳

招待席

技術論の6つの問題 理論と実践の狭間で生きる 岩城正夫さん

特別記事

糖尿病療養指導士を地域ネットワークで活用する 船田仁美

連載

A-LSD! 病床からの誘惑・6 —— 甲谷匡賛・志賀玲子
世界の感受の只中で・6 —— 天田城介
看護師のためのセルフコーチング
自分の人生をコントロールするために・7 —— 鱸伸子・柳澤厚生
患者・看護師双方のためのアクティビティケア・7 —— 六角僚子
見えないものが見えてくる「臨床感染症」とのつきあい方・7 —— 今村顕史
HIV/AIDS ケア 再考・7 —— 大金美和・山田由紀
Pipoさんの疾走ダイアリー・7 —— Pipoさん
アフリカが紡ぐ命の物語・10 —— 井上冬彦
悩めることも才能だ! 宮子あずさのお悩み外来・22 —— 宮子あずさ

看護学雑誌 第71巻第9号 2007年9月1日発行(毎月1回発行)

発行/株式会社医学書院 代表者 金原優

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2007, Printed in Japan

1部定価 1,260円(本体1,200円+税5%) 年ごめ予約購読料 13,200円(税込、送料弊社負担)

・定期購読のお申し込み先/(株)医学書院販売部 TEL 03-3817-5659

・第69巻以前のバックナンバーのご注文先/(株)東亜ブック TEL 03-3985-4701

「看護学雑誌」編集室(担当/鳥居・大野・小田嶋) TEL 03-3817-5772

E-mail kangaku@igaku-shoin.co.jp 医学書院ホームページ <http://www.igaku-shoin.co.jp>

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCLS <(株)日本著作出版権管理システム委託出版物>

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(TEL 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の許諾を得てください。本誌掲載論文・記事のタイトル頁最下段に記された「0386-9830/07/¥250/論文/JCLS」は、1論文1回複写につき250円要することを明示したものです。これは表示のない論文等にも適用されます。JCLSへのご連絡の際には、筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご掲示くださるようお願いいたします。

編集後記

●巷で話題のエクササイズビデオ、Bズブートキャンプを入手。1日1時間程度プログラムの、毎日PCに向き合う生活を続けている私の身体は30分ほどで悲鳴をあげてしまいます。とりあえず水を取り、続きのエクササイズを呆けて眺めていると、突然、画面の中からB隊長が語りかけてきました。「辛かったら休んでもいい……でも、諦めるんじゃない!」。うーむ、画面の中からハッパをかけてくるエクササイズビデオ……すごい。エンパワーメントやコーチングとは一切縁がなさそうなB隊長ですが、軍隊で培った人心掌握術なのでしょう。見るものをやる気にさせるパワーに満ち満ちていました。「作業療法にブートキャンプなんてどうかな?」。床に突っ伏し、水でのどを潤しながら、そんなことを思いました。【鳥居】

●私は、早寝早起きが得意で、夜更かしはできないものの、朝は何時にでも起きられます。ただ、このリズムにずれが出る、たとえば度を越した夜更かしなどすると、翌日は使い物にならない弱さがあります。だからこそ、交替勤務をする看護師の皆さんは、本当に凄いなと思います。専門誌で睡眠を取り上げると、どうしても患者さんの不眠などへの対応がメインになりがちです。が、それよりも働いている看護師自身の抱える問題のほうが、実際は重要なのではないかと考えて、今月の特集を組んでみました。光や温度を考慮したり、アンカー睡眠を利用したりして、少しでも快眠が得られるようになってくれば幸いです。そして、その方法が患者さんにも応用できれば、言うことはありません。【大野】

●ある地方都市に出張で出向いた折の失敗談。十分な所持金を持たずに新幹線に飛び乗り、現地のATMで下ろせばいいや、と考えていたのが大甘。名前を聞けばすぐわかるような小都市なのですが、駅前のどこを探しても銀行やコンビニは見当たらず、所持金と相談しながらの心細い夜を過ごしました。2千万人を軽く超えてしまう首都圏の人口は、規模効果という意味で様々なきめ細かなサービスを可能にします。人の密集度の高い地域では300メートルに1軒の立地まで可能といわれるコンビニなどはその典型でしょう。一方、その便利さのために終夜電灯を点け、人が働いているといった状況は、地球規模でのエコロジカルな視点で見ればとても正常とは思えません。そんな光景に薄気味の悪さを覚えつつ、それに慣れきってしまっている自分に気づかされた体験でした。【林田】